

# 世界は本当に EVに舵を切ったのか？

メディア報道とリアルワールドの乖離

岡崎五郎 日本自動車ジャーナリスト協会理事

 この記事は会員限定です

今月の閲覧：残り10本

## GM「ガソリン車35年全廃」 乗用車、全車種電動化の目標 ハイブリッドも手掛けず

2021年1月30日 2:00 [有料会員限定]

 保存

米ゼネラル・モーターズ（GM）は28日、2035年までにガソリン車の生産と販売を全廃し、電気自動車（EV）など二酸化炭素（CO2）を排出しない車に切り替える目標を発表した。米国市場で首位の座を占め、世界で年間600万台超を売るGMの戦略転換は、部品など自動車業界を広く巻き込む「脱ガソリン車」シフトのうねりを引き起こしそうだ。



# General Motors, the Largest U.S. Automaker, Plans to be Carbon Neutral by 2040

2021-01-28



- GM plans to be carbon neutral' by 2040 in its global products and operations
- GM aspires to eliminate tailpipe emissions from new light-duty vehicles by 2035
- GM has committed to the Business Ambition Pledge for 1.5°C

GMにはもう利益の出ない市場にとどまっている余裕はない。全ての顧客と市場に対応した、あらゆる車を生産する企業であろうとすることをやめなければならない。



欧州、ロシア、インド、タイのほか、89年間営業を続けてきたオーストラリアからも引き揚げる。コミットメントではない。

メアリー・バーラCEO

# メルセデス・ベンツ、全車EVに 2030年まで、5兆円以上投資

経済 | 速報 | グローバル

毎日新聞 | 2021/7/23 03:12(最終更新 7/23 03:30) | 有料記事 | 227文字



メルセデス・ベンツの電気自動車を紹介するダイムラーのケレニウス社長=ドイツ・フランクフルトで2019年9月、AP共同

ドイツ自動車大手ダイムラーは22日、2030年までに高級車部門「メルセデス・ベンツ」の新車全てを電気自動車(EV)にする計画だと発表した。実現に向け、22~30年に400億ユーロ(約5兆2000億円)以上を投資するという。

メルセデスは1回の充電で千キロ以上走る新型車を開発中で、22年にも発表の予...



自動車最前線 ▶ 電動化

## ベンツが2030年にEVメーカーへ、その真意とは EVシフトの欧州と、HVの選択肢を残す日本の差

次ページ »

御堀 直嗣: モータージャーナリスト | 著者フォロー

2021/08/16 10:00

シェア 76 | ツイート | 一覧 | B! 0 | 印刷 | A A



メルセデス・ベンツは2021年7月22日、「Mercedes-Benz prepares to go all-electric (メルセデス・ベンツは、オール・エレクトリックへの準備を進める)」と発表。正式にEVシフトを宣言した(写真: DAIMLER)



## Mercedes-Benz prepares to go all-electric

Jul 22, 2021 | Stuttgart (Germany)

- All newly launched architectures will be electric-only from 2025 onwards.
- In 2025 Mercedes-Benz will launch three electric-only architectures.
- Mercedes-Benz will be ready to go all electric at the end of the decade, where market conditions allow.
- Mercedes-Benz to install battery cell capacity of more than 200 Gigawatt hours with partners, plans for eight cell factories.
- New partnerships for development and production of battery cells in Europe.
- Efficiency of electric drivetrains to be enhanced through vertical integration and the acquisition of YASA, a specialist in ultra-high performance axial flux motors.
- Plug & Charge to introduce seamless charging without extra steps needed for authentication and payment. Mercedes me Charge to have more than 530,000 AC and DC charging points worldwide.
- Acceleration of electrification ramp-up marks a radical shift in capital allocation.
- Mercedes-Benz is committed to its margin targets – also in a BEV-world.

Stuttgart (Germany) – Mercedes-Benz is getting ready to go all electric by the end of the decade, where market conditions allow. Shifting from electric-first to electric-only, the world's pre-eminent luxury car company is accelerating toward an emissions-free and software-driven future.

Mercedes-Benz is getting ready to go all electric by the end of the decade, where market conditions allow.

## ホンダ、世界販売全てをEV・FCVに 40年目標

カーボンゼロ [+ フォローする](#)

2021年4月23日 16:45 (2021年4月24日 5:15更新)

保存

**Think!** 多様な観点からニュースを考える

[中西孝樹さん](#)他3名の投稿



記者会見するホンダの三部敏宏社長（23日、東京都港区）

[ホンダ](#)は23日、2040年までに世界での新車販売全てを電気自動車（EV）と燃料電池車（FCV）に切り替えると発表した。ハイブリッド車（HV）も含め走行中に二酸化炭素（CO2）を排出する新車の販売はやめる。同様の方針は米ゼネラル・モーターズ（GM）やスウェーデンのボルボ・カーなども表明済み。世界的な脱炭素の流れをうけ、自動車各社が具体的な戦略転換に動いている。

## ■記者発表終了後のQ&Aセッションにおける三部社長の発言

- クルマの保有を約10年と見ますと、40年には新車から出るCO2をゼロにしなくてはなりません。今手の内にある技術でそれを達成できるのは、EVもしくはFCVということになります。ですから今日はEVとFCVというような表現をさせていただきました。
- ただし、原材料を含めたバッテリーの調達は相当ハードルが高いと考えています。
- 顧客視点で買っていただけるEVが供給できるかどうか、これも非常にハードルが高い。
- たとえば、すでに建っているマンションに充電環境が作れるかという点も非常に大きな課題があると思います。
- モーター、インバーター、バッテリーの性能を上げながら、コストも下げなければいけない。これも大きな課題です。
- こうした非常に流動的な状況のなか、目標達成に向けて前向きに取り組んでいきたいと考えております。

朝日新聞デジタル > 記事

## EU、2035年にハイブリッド車も禁止へ EV化加速

有料会員記事

ブリュッセル=青田秀樹、ロンドン=和氣真也 2021年7月14日 21時25分 コメント2件

シェア ツイート ブックマーク メール 印刷



独フォルクスワーゲンのEV「ID3」。欧州自動車各社はEV開発に力を入れる=2019年9月、フランクフルト、和氣真也撮影



[PR]

欧州連合（EU）の行政府の欧州委員会は14日、2035年にガソリン車の新車販売を、ハイブリッド車（HV）も含めて事実上禁止する案を発表した。自動車各社の電気自動車（EV）シフトを加速させ、日本のメーカーも戦略の見直しを迫られそうだ。また、「脱炭素」が進んでいない国からの輸入品に課金する「炭素国境調整措置」の導入案も示された。

EUは50年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするため、30年には1990年比で55%削減する目標を掲げている。14日は、その実現に向けた新たな環境政策案が発表された。今後、EU議会での立法化手続きが必要となる。

欧州委は現在、自動車の排出ガスに厳しい基準を設け、違反した場合に罰金を科す形で各社に環境対応を促している。今回の案では35年をメドに二酸化炭素（CO2）排出基準を一気にゼロに設定し、実質的にガソリン車はHVも含めて新たに売れなくする。

EUの昨年の自動車市場は約…

## EU、エンジン車に引導 自動車各社は戦略見直し不可避

ヨーロッパ + フォローする

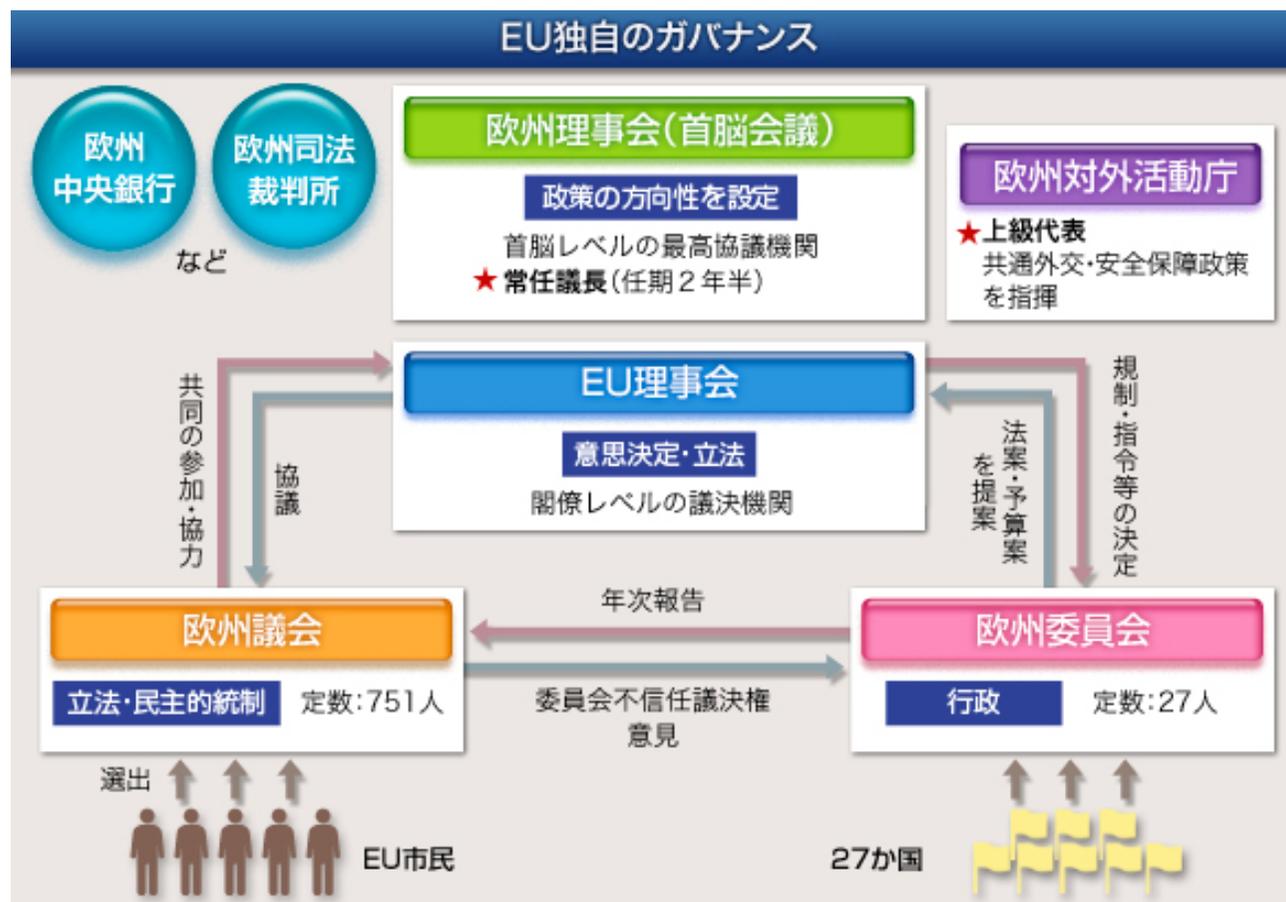
2021年7月14日 22:25 [有料会員限定]

保存



欧州委は主要幹線道路にEV充電網を張り巡らせる計画だ

【フランクフルト=深尾幸生】欧州連合（EU）の欧州委員会が2035年にハイブリッド車を含むガソリン・ディーゼル車の販売を事実上禁止する。背景には50年に域内の温暖化ガスを実質ゼロにするためには、その時点ですでに市場にあるすべての車両からの温暖化ガス排出を極力ゼロにする必要があるからだ。短期間でのエンジン車から電気自動車（EV）などへの移行を求められ、自動車各社は戦略の見直しが避けられない。



これから欧州委員会（環境寄り）の草案を欧州議会（産業寄り）が審議する。  
1年半～2年はかかり、修正が加えられる見込みが強い。



日本自動車工業会 会長 豊田章男氏

- ・今年11月にはCOP26もあり、各国の代表者からはこれまでさまざまな目標が提示され、その実現策として、出口であるクルマの選択肢を狭める動きも出てまいりました。

- ・カーボンニュートラルにおいて私たちの敵は炭素であり、内燃機関ではありません。炭素を減らすためには、その国や地域の事情に見合ったプラクティカルでサステナブルな取り組みが必要だと思っております。



ステランティスCEO  
カルロス・タバレス

- ・各国政府は世論を味方につけようとしているが、科学的根拠を理解し、ライフサイクル全体を分析する必要がある。純粹にマフラーから出るガスの量だけを義務付ける行政は大局を見失っており、消費者向けの自動車コストを押し上げている。
- ・よりクリーンなモビリティを手頃な価格で提供しなければ、多くの人々が大量のガスを排出し続ける古いクルマに乗り続けることになる。単一の技術（EV）ではなく、複数の技術を用いた方が効率的だ。
- ・手頃な価格を維持できなければ、移動の自由に影響を与えることになり、これは現代の民主主義にとって大きな問題だ。
- ・エンジンの使用禁止時期を適切にしなければ、人々に自転車で会社に行くか、EVを買うか、という選択を迫ることになる。



欧州自動車工業会会長 Oliver Zipse

- ・ 内燃機関以外の動力源に移行するための適切な条件を整えるのに苦労している現状、エンジン車とHEVを禁止することは現時点では合理的な方法ではない。

- ・ 有害なのは内燃機関ではなく化石燃料。代替燃料が利用できない場合、2035年の目標は事実上の内燃機関の禁止だ。

- ・ 特定の技術を義務化したり禁止したりするのではなく、イノベーションに焦点が当てられるようにすべきだ。

# SDGs はバックカスティングが基本



しかし、エネルギー政策や産業政策は人々の日々の暮らしを支えるもの。

SDGs的発想、つまり理想論からのバックキャストは馴染まないのではないか？

ユーザビリティを無視した議論から持続可能なモビリティは生まれない。